



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン

ぼん子画

(530-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

「道を歩く人がやってきた」⑥

横断歩道で、難儀している車椅子の人をみた。少し高い段になっていて歩道に上り切れな
いようだ。そばに歩行者がいるのに誰も手助けしようとしな。そこでわが輩が「押しまし
ょうか」と声をかけた。

「余計なことをするな！」

突然なことにびっくりした。顔を覗き込むと喪服を着た老人であった。

「ナメとんのか！」

老人性激高症かと察して、「なめてない。(舌で)舐めてない」と言いながら通り過ぎた。

四苦(生老病死)の「老」だから、仕方がないと言えば仕方がないことである。

この老人は何に激怒したのであろうか。おそらく現在の自分に激怒したのだろう。ひょっ
としたら社会的に地位の高かった人かもしれない。常に上から目線で、何でも自分でできた
人ではなかったか。それが今の自分は、惨めというほかはない。人さまから施しを受けたこ
とがない。だから「ありがとう」が育たなかった。

いや、「ルサンチマン」かもしれない。フランス語で憤り・怨恨・憎悪・非難・嫉妬など
の意味である。哲学者ニーチェによると、弱い者が強い者に抱く感情である。その感情によ
って、「弱いおれは善だ!」、「強い奴は悪だ!」だと思ひ込んでしまうことである。これは
弱い者が、自己満足のために必要とした感情である。苦痛を麻痺させる感情でもある。

ルサンチマンなどという哲学用語を使わなくても、弱い者が強い者からいじめられると、
「転んでケガでもしろ!」などと”呪う”ことは、ときにはあることだ。

先週、印友(元ヒッピー)からメールが送られてきた。YouTubeをみて憤慨したらしい。

インド在の日本人僧の「取り巻きの若造(日本人)が出家ゲーム」を始めたのが癪に障っ
たようである。(彼は「出家」ということを真剣に考えているから故に一)

この僧は「世界ふしぎ発見」(TBS 2023/02/25)にも出演していた。

わが輩はこの番組をみて呆れた。「インド仏教徒一億二千万人の最高指導者」などと謳っ
ていたからである。(娯楽番組だから目くじらを立てることはないのだが一)一億人二千万
人と言うと、ほぼ日本人口に匹敵する。(あり得ない話である)この虚像を創り上げたのが、
日本のメディア、それを誘導した「ジャーナリスト」という人たちである。評論家宮崎哲弥

が、テレビ番組で「最高指導者！」と絶叫したのを聞いて啞然とした。

最近では研究者も取り巻いているようである。どのような論文を書こうが自由だが、「アフガンで銃殺された中村哲医師と比較して下さい」と、お願いしている。

この日本人僧が“錦の御旗”にしているのが、不可触民出身のアンベードカル博士（1891-1956）という人である。初代の法務大臣として入閣、インド憲法草案委員長を務めた指導者である。インド独立に際して、独立の仕方をめぐってガンディーと意見が対立した。それで博士はカーストの手かせ足かせから逃れるために、1956年不可触民とともにヒンドゥー教から仏教に集団改宗した。

博士の死後も、ガンディー（宿敵ヒンドゥー教徒）に対するルサンチマン（怨念）が、今日まで尾を引くことになった。そのルサンチマンに便乗したのが、件の日本人僧である。

ヒンドゥー枠から離脱すると結婚式や宗教儀礼のときに困る。それで「日本人名誉祭司」として大忙しになった。

ヒンドゥー社会では、上位カーストは善い、下位カーストは悪いであったが、改宗によって逆転現象がおこった。下位カーストが「善」となり、件の日本人僧が正義の味方になってしまったのである。

二点指摘しておきたい。1948年ガンディーは右派ヒンドゥー教徒によって暗殺された。そのときにデリーに真っ先にかけてしたのはアンベードカル博士であった。

改宗は、個人的にブッダに帰依する改宗ではなく、政治的集団改宗の色彩が濃かった。しかし今や三世・四世の仏教徒の時代になり、教育・生活水準があがり、以前とは異なった傾向が現れている。医師、弁護士、教授、起業家、ITエンジニアなども育っている。ガンディーを歴史的に評価する人もでてきた。またブッダを「信仰」として尊崇する人たちもあらわれてきた。

未だに、件の僧は右手の拳を突き上げて、戦闘を鼓舞するスタイルを採用しているが、一体この「虚像の道」は、どこに進んでいくのだろうか。

先日の上海モーターショー「アイスクリーム事件」をご存知だろうか。ドイツ車のBMW社のブースで、中国人女性が無料提供のアイスクリームを求めたところ、品切れと断られた。しかし、その直後にやってきた白人男性には与えられた。「中国人差別だ！」と批判の声があがり、SNSで拡散した。一部では不買運動が起きたそうだが、全国的な運動に発展しなかった。

わが輩が目にしたのは、それに対するコメントである。中国も世界第2の経済大国になり、それなりの自信ができてきた。それによって抑制の力がはたらいた、との主旨であった。この件では、ルサンチマン（怨恨）による「オレの善」や「オレの正義」は発動しなかった。

もっとも日本が同じことをした場合、「正義」が発動されるか、今のところ不明である。

インドもやがて世界第3の経済大国になるだろう。いつまでも拳を突き上げていたのでは、世界（仏教）から取り残されることになる。もうそろそろ鉄拳をパーッと開いて、両手を合わせて合掌しようよ。